モニタリングサイト 1000 沿岸域調査
（干潟調査）
調査データの概要と利用上の注意点

（2023 年 7 月版）

内容

I. 利用上の注意点 2
II. データセットの概要 3
毎年調査 3
① 方形枠内に出現したベントスの個体数及びそれに付随するデータ（生物定量調査（2mm 篩）） 4
② 調査ポイント周辺に出現したベントスの種名及びそれに付随するデータ（生物定性調査） 5
５年毎調査 6
③ 底土の粒度及びそれに付随するデータ（底土分析） 6
④ 底土の強熱減量及びそれに付随するデータ（底土分析） 6
III. データファイルの種類とその概要 7
毎年調査 7
① 方形枠内に出現したベントスの個体数及びそれに付随するデータ（生物定量調査（2mm 篩）） 7
② 調査ポイント周辺に出現したベントスの種名及びそれに付随するデータ（生物定性調査） 7
５年毎調査 8
③ 底土の粒度及びそれに付随するデータ（底土分析） 8
④ 底土の強熱減量及びそれに付随するデータ（底土分析） 8
IV. データ項目の説明 9
毎年調査 9

① 方形枠内に出現したベントスの個体数及びそれに付随するデータ（生物定量調査（2mm 篩）） 9
② 調査ポイント周辺に出現したベントスの種名及びそれに付随するデータ（生物定性調査） 12
５年毎調査 15
③ 底土の粒度及びそれに付随するデータ（底土分析） 15
④ 底土の強熱減量及びそれに付随するデータ（底土分析） 17
V. 参考情報 19

I. 利用上の注意点

- 本文書にはモニタリングサイト 1000 沿岸域調査（干潟調査）で得られた調査データ（以下「データ」という）の概要と利用上の注意点が示されています。データをご利用される際には、必ず「本文書」及び「マニュアル」をお読み下さい。これらに書かれている注意点に同意できない場合は、データを利用することはできません。
- モニタリングサイト 1000 沿岸域調査（磯・干潟・アマモ場・藻場）では、絶滅危惧種や希少種に関わる情報や緯度経度等の詳細な位置情報を、一部保護情報として取り扱っており、データファイルにはこれらの保護情報は含まれていません。保護情報を含めたデータの利用を希望される場合には、環境省自然環境局生物多様性センター（巻末に連絡先を掲載）までお問い合わせください。
- 調査はマニュアルに従って実施されています。ただし、モニタリングを効果的に実施するために、調査方法等が毎年検討されており、その検討結果を受けて、調査マニュアルの記載内容が変更されている場合があります。データのご利用に当たっては、調査報告書に掲載されている当該年度の調査マニュアルをご参照されるようお願いします。
- 本事業に関しては、環境省自然環境局生物多様性センターのモニタリングサイト 1000 ホームページ（https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html）をご参照下さい。
- 論文やプレゼンテーション等でデータを利用される際には、下記の例を参考にデータの出典を明記して下さい。

「xxx のデータについては、環境省モニタリングサイト 1000 プロジェクトによる（HIG**.zip、http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_tidalflats.html、よりダウンロード）。」

“Data for XXX was provided by the Ministry of the Environment Monitoring Sites 1000 Project (HIG**.zip, downloaded from https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_tidalflats.html).”
注：「**」にはダウンロードしたデータの番号をいれてください（01, 02 等）。

- データに関するご質問は、環境省自然環境局生物多様性センターまでご連絡下さい。
- データは、予告なく随時、変更・修正されます。変更した場合は、ファイルのバージョン番号が変わりますのでご注意下さい。
- 本注意点は、予告なく変更する場合があります。また、新たなデータファイルの公開に併せて項目追加等の更新をします。

II. データセットの概要

毎年調査

調査の概要

- 2008 年度から年 1 回調査を実施しています。
- 調査時期は原則として 4 月から 6 月に設定されています。
- 2008 年度は厚岸、松川浦、盤洲干潟、南紀田辺、中津干潟、永浦干潟、石垣川平湾サイトで、試行的に調査が実施されました。
- 汐川干潟は 2009 年度から調査を開始しました。
- 2021 年度時点で干潟調査のサイト数は 8 サイトです。
- 定量調査と定性調査を実施しています。
- 各サイトには 1～3 つのエリア（A、B、C）があり、それぞれのエリア内に 2～3 つの調査ポイント（潮間帯上部：U、潮間帯中部：M、潮間帯下部：L）が設定されています。
- 各サイトでは、生物量の変化を観察することを目的とした定量調査と、当該サイト内の生物種の多様性を把握するための定性調査を実施しています。

① 方形枠内に出現したベントスの個体数及びそれに付随するデータ（生物定量調査（2mm 篩））

- 各調査ポイントでは 50 cm 四方の方形枠をランダムに 5 個配置して表在動物を記録したのち、15 cm 径のコアサンプラー（深さ 20 cm）を用いて底土ごと生物を採集し、2 mm 目合いの篩でふるって得られた埋在動物を記録しています。
- 表在動物は 0.25m^2（50cm 四方の方形枠）内に出現した個体数、埋在動物は 0.0177 m^2（直径 15cm のコア）内に出現した個体数のデータです。

② 調査ポイント周辺に出現したベントスの種名及びそれに付随するデータ（生物定性調査）

- 調査ポイント周辺を 2 名で 15 分間観察し、発見したベントスを記録しています。

- 調査方法の詳細については、各データが取得された調査報告書に掲載されているモニタリングマニュアルをご参照ください。
（https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html）

① 方形枠内に出現したベントスの個体数及びそれに付随するデータ（生物定量調査（2mm 篩））

「HIG01.zip」には以下の CSV ファイルが含まれています。

- TFAKS_quantitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFAKS_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFAKS_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFBNZ_quantitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFBNZ_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFBNZ_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFKBR_quantitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFKBR_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFKBR_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFMTK_quantitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFMTK_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFMTK_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFNGU_quantitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFNGU_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFNGU_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFNKT_quantitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFNKT_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFNKT_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFSOK_quantitative_2009-2012_Annual_ver#.csv
- TFSOK_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFSOK_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFTNB_quantitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFTNB_quantitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFTNB_quantitative_2018-2022_Annual_ver#.csv

② 調査ポイント周辺に出現したベントスの種名及びそれに付随するデータ（生物定性調査）

「HIG02.zip」には以下の CSV ファイルが含まれています。

- TFAKS_qualitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFAKS_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFAKS_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFBNZ_qualitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFBNZ_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFBNZ_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFKBR_qualitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFKBR_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFKBR_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFMTK_qualitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFMTK_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFMTK_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFNGU_qualitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFNGU_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFNGU_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFNKT_qualitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFNKT_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFNKT_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFSOK_qualitative_2009-2012_Annual_ver#.csv
- TFSOK_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFSOK_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv
- TFTNB_qualitative_2008-2012_Annual_ver#.csv
- TFTNB_qualitative_2013-2017_Annual_ver#.csv
- TFTNB_qualitative_2018-2022_Annual_ver#.csv

５年毎調査

調査の概要

- 2008 年度から 5 年に 1 回調査を実施しています。
- 調査時期は原則として 4 月から 6 月に設定されています。
- 2008 年度、2013 年度、2018 年度は 8 サイトで調査が実施されました。
- 各サイトには 1～3 つのエリア（A、B、C）があり、それぞれのエリア内に 2～3 つの調査ポイント（潮間帯上部：U、潮間帯中部：M、潮間帯下部：L）が設定されています。
- 各サイトでは、底生動物量の変化を観察することを目的とした定量調査を実施し、採集した底生動物の標本を作製しています。また、定量調査を実施した場所では、粒度や有機物含有量を調べるために底土を採取しています。

③ 底土の粒度及びそれに付随するデータ（底土分析）

- 各調査ポイントの底生動物を採集した場所の近傍において、5cm 径のコアサンプラー（深さ 5cm）で底土を採集し、篩法による粒度組成の測定をしています。

④ 底土の強熱減量及びそれに付随するデータ（底土分析）

- 各調査ポイントの底生動物を採集した場所の近傍において、5cm 径のコアサンプラー（深さ 5cm）で底土を採集し、強熱減量法による有機物含有量の測定をしています。

- 調査方法の詳細については、マニュアルをご参照ください。
（https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/index.html）

③ 底土の粒度及びそれに付随するデータ（底土分析）

「HIG03.zip」には以下の CSV ファイルが含まれています。

- TFAKS_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFBNZ_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFKBR_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFMTK_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFNGU_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFNKT_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFSOK_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFTNB_sediments_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv

④ 底土の強熱減量及びそれに付随するデータ（底土分析）

「HIG04.zip」には以下の CSV ファイルが含まれています。

- TFAKS_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFBNZ_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFKBR_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFMTK_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFNGU_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFNKT_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFSOK_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv
- TFTNB_ignitionloss_2008-2018_Fiveyear_ver#.csv

III. データファイルの種類とその概要

毎年調査

① 方形枠内に出現したベントスの個体数及びそれに付随するデータ（生物定量調査（2mm 篩））

【TFxxx_quantitative _20xx-20xx_Annual_ver#】

- ファイルの名称は、「生態系コード（TF）・サイトコード（xxx）_生物定量調査（quantitative）_年度（20xx-20xx）_調査種別（Annual）_バージョン（ver#）」となっています。
- サイト毎及び 5 年単位で個別のファイルになっています。
- 生物定量調査（2 mm 篩）のデータ（出現種名、個体数、緯度経度、調査日等）が格納されています。

サイトコード一覧

厚岸	AKS
松川浦	MTK
盤洲干潟	BNZ
汐川干潟	SOK
南紀田辺	TNB
中津干潟	NKT
永浦干潟	NGU
石垣川平湾	KBR

② 調査ポイント周辺に出現したベントスの種名及びそれに付随するデータ（生物定性調査）

【TFxxx_qualitative _20xx-20xx_Annual_ver#】

- ファイルの名称は、「生態系コード（TF）・サイトコード（xxx）_生物定性調査（qualitative）_年度（20xx-20xx）_調査種別（Annual）_バージョン（ver#）」となっています。
- サイト毎及び 5 年単位で個別のファイルになっています。
- 生物定性調査のデータ（出現種名、生息帯、調査日等）が格納されています。
- 現在、盤洲干潟、南紀田辺、中津干潟、永浦干潟サイトに保護情報が含まれています。

サイトコード一覧

厚岸	AKS
松川浦	MTK
盤洲干潟	BNZ
汐川干潟	SOK
南紀田辺	TNB
中津干潟	NKT
永浦干潟	NGU
石垣川平湾	KBR

５年毎調査

③ 底土の粒度及びそれに付随するデータ（底土分析）

【TFxxx_sediments_2008-20xx_Fiveyear_ver#】

- ファイルの名称は、「生態系コード（TF）・サイトコード（xxx）_堆積物（sediments）_年度（2008-20xx）_調査種別（Fiveyear）_バージョン（ver#）」となっています。
- サイト毎に個別のファイルになっています。
- 底土分析のデータ（粒径（μm）、重量パーセント、調査日、エリア、ポイント、コア番号等）が格納されています。

サイトコード一覧

厚岸	AKS
松川浦	MTK
盤洲干潟	BNZ
汐川干潟	SOK
南紀田辺	TNB
中津干潟	NKT
永浦干潟	NGU
石垣川平湾	KBR

④ 底土の強熱減量及びそれに付随するデータ（底土分析）

【TFxxx_ignitionloss_2008-20xx_Fiveyear_ver#】

- ファイルの名称は、「生態系コード（TF）・サイトコード（xxx）_強熱減量（ignitionloss）_年度（2008-20xx）_調査種別（Fiveyear）_バージョン（ver#）」となっています。
- サイト毎に個別のファイルになっています。
- 底土分析のデータ（強熱減量（%）、調査日、エリア、ポイント、コア番号等）が格納されています。

サイトコード一覧

厚岸	AKS
松川浦	MTK
盤洲干潟	BNZ
汐川干潟	SOK
南紀田辺	TNB
中津干潟	NKT
永浦干潟	NGU
石垣川平湾	KBR

IV. データ項目の説明

毎年調査

① 方形枠内に出現したベントスの個体数及びそれに付随するデータ（生物定量調査（2mm 篩））

データ構造

・行頭に「#」がついている行は、データファイルの概要（メタデータ）、データ項目、注釈です。

データ本体の説明

● catalog_number：カタログ番号
・収集品内のレコード別 ID
・[サイトコード＋調査名＋通し番号]、調査名は AN（Annual_quaNtitative）
（例）AKSAN0000001:厚岸サイト（AKS）の毎年調査の定量調査（AN）

● protected_information：保護情報
・マスク情報

● investigator_id：調査者番号
・モニ 1000 沿岸域調査者データベース（DB）の番号と対応

● year_collected、start_year_collected、end_year_collected：調査（開始、終了）年
・4 桁の整数で表示

● month_collected、start_month_collected、end_month_collected：調査（開始、終了）月
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査月（month_collected）が明確でない場合は調査開始月の値で表示

● day_collected、start_day_collected、end_day_collected：調査（開始、終了）日
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査日（day_collected）が明確でない場合は調査開始日の値で表示

● time_of_day、start_time_of_day、end_time_of_day：調査（開始、終了）時間
・24 時間で表示
・データが取得された時間帯
・同日で複数の時間帯に分けて調査が実施され、データが取得された時間帯が明確でない場合は、調査開始時間の早い時間帯を表示

● time_zone：標準時
・±hh:mm で表示

● weather：天候
・調査時の天候

● area：エリア
・調査エリア名をアルファベットと数字で表示

● point：ポイント
・調査ポイント名をアルファベットで表示
・潮間帯上部を「U」、潮間帯中部を「M」、潮間帯下部を「L」で表示

● quadrat_number：方形枠番号
・アルファベットと数字で表示

● latitude：緯度、longitude：経度
・方形枠及びコアの位置の緯度と経度を世界測地系（WGS84、10 進法、小数点以下第 4 位）で表示

● phylum（門）、class（綱）、order（目）、family（科）：門、綱、目、科の名称
・出現種の門、綱、目、科の名称
・調査報告書の報告書データファイル（表形式）と表記が異なる場合があります。

● scientific_name：学名、japanese_name：和名
・出現種の学名及び和名
・調査報告書の報告書データファイル（表形式）と表記が異なる場合があります。
・種の同定が困難な場合は、上位分類群までの同定に留めています。

● number_of_individuals：個体数
・表在動物は 50 cm 四方の方形枠内に出現する個体数を示します。
・埋在動物は 15 cm 径のコアサンプラー（深さ 20 cm）で採集した個体数を示します。
・表在動物と埋在動物は個体数を確認する方法が異なるため、個体数を単純に比較することはできません。
・一部のデータは、存在していたことを示す「+」が表記されている場合があります。

● epifauna_or_infauna：表在・埋在
・階層区分
・表在（50cm 四方の方形枠）又は埋在（15 cm 径のコアサンプラー）の区分

● life_stage：成長段階
・出現種の成長段階

● soil_temperature：地温（℃）
・任意の計測項目のため、データが取得されていない場合があります。
・方形枠及びコア周辺の土壌温度
・少数点以下第 1 位までで表示

● eh：Eh メーター読値（mV）
・任意の計測項目のため、データが取得されていない場合があります。
・方形枠及びコア周辺の土壌の電気伝導度
・整数で表示

● oxidation_reduction_potential：酸化還元電位（mV）
・任意の計測項目のため、データが取得されていない場合があります。
・方形枠及びコア周辺の土壌の酸化還元電位
・整数で表示

● vegetation：植生
・方形枠内に生育していた植物種

● substrate：底質（基質）
・見た目の底質
・砂、泥、小礫等、景観としての底質を表示

● remarks：調査（地点）の備考
・調査や調査地点に関する備考
・調査地点周辺に生育している植生が記録されている場合があります。

● remarks_on_identification：同定の備考
・出現種の同定に関する備考
・方形枠内に生育していた植物種の被度が記入されている場合があります。

● Source：レコードの出典
・データの出典元に関する情報
（例）平成 20 年度重要生態系モニタリング推進事業沿岸域（磯・干潟・アマモ場・藻場）調査業務報告書

※データがない（欠測値、該当なし等）場合は「nd」、データはあるが何らかの理由で利用できない（未確定、異常値等）場合は「na」とした。

② 調査ポイント周辺に出現したベントスの種名及びそれに付随するデータ（生物定性調査）

データ構造

・行頭に「#」がついている行は、データファイルの概要（メタデータ）、データ項目、注釈です。

データ本体の説明

● catalog_number：カタログ番号
・収集品内のレコード別 ID
・[サイトコード＋調査名＋通し番号]、調査名は AL（Annual_ quaLitative）
（例）AKSAL0000001:厚岸サイト（AKS）の毎年調査の定性調査（AL）

● protected_information：保護情報
・マスク情報

● investigator_id：調査者番号
・モニ 1000 沿岸域調査者データベース（DB）の番号と対応

● year_collected、start_year_collected、end_year_collected：調査（開始、終了）年
・4 桁の整数で表示

● month_collected、start_month_collected、end_month_collected：調査（開始、終了）月
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査月（month_collected）が明確でない場合は調査開始月の値で表示

● day_collected、start_day_collected、end_day_collected：調査（開始、終了）日
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査日（day_collected）が明確でない場合は調査開始日の値で表示

● time_of_day、start_time_of_day、end_time_of_day：調査（開始、終了）時間
・24 時間で表示
・データが取得された時間帯
・同日で複数の時間帯に分けて調査が実施され、データが取得された時間帯が明確でない場合は、調査開始時間の早い時間帯を表示

● time_zone：標準時
・±hh:mm で表示

● weather：天候
・調査時の天候

● area：エリア
・調査エリア名をアルファベットと数字で表示

● point：ポイント
・調査ポイント名をアルファベットで表示
・潮間帯上部を「U」、潮間帯中部を「M」、潮間帯下部を「L」で表示

● phylum（門）、class（綱）、order（目）、family（科）：門、綱、目、科の名称
・出現種の門、綱、目、科の名称
・調査報告書の報告書データファイル（表形式）と表記が異なる場合があります。

● scientific_name：学名、japanese_name：和名
・出現種の学名及び和名
・調査報告書の報告書データファイル（表形式）と表記が異なる場合があります。
・種の同定が困難な場合は、上位分類群までの同定に留めています。

● habitat：生息帯
・出現種が確認された場所（干潟、植生帯、転石帯、岩礁帯等）

● life_stage：成長段階
・出現種の成長段階

● substrate：底質（基質）
・見た目の底質
・砂、泥、小礫等、景観としての底質を表示

● remarks：調査（地点）の備考
・調査や調査地点に関する備考
・調査地点周辺に生育している植生が記録されている場合があります。

● remarks_on_identification：同定の備考
・出現種の同定に関する備考

● source：レコードの出典
・データの出典元に関する情報
（例）平成 20 年度重要生態系モニタリング推進事業沿岸域（磯・干潟・アマモ場・藻場）調査業務報告書

※データがない（欠測値、該当なし等）場合は「nd」、データはあるが何らかの理由で利用できない（未確定、異常値等）場合は「na」とした。

③ 底土の粒度及びそれに付随するデータ（底土分析）

データ構造

・行頭に「#」がついている行は、データファイルの概要（メタデータ）、データ項目、注釈です。

データ本体の説明

● catalog_number：カタログ番号
・収集品内のレコード別 ID
・[サイトコード＋調査名＋通し番号]、調査名は FPD（Fiveyear_Particle size_Distribution of the sediments）
（例）AKSFPD0000001：厚岸サイト（AKS）の 5 年毎調査の底土の粒度組成（FPD）

● investigator_id：調査者番号
・モニ 1000 沿岸域調査者データベース（DB）の番号と対応

● year_collected、start_year_collected、end_year_collected：調査（開始、終了）年
・4 桁の整数で表示

● month_collected、start_month_collected、end_month_collected：調査（開始、終了）月
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査月（month_collected）が明確でない場合は調査開始月の値で表示

● day_collected、start_day_collected、end_day_collected：調査（開始、終了）日
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査日（day_collected）が明確でない場合は調査開始日の値で表示

● time_of_day、start_time_of_day、end_time_of_day：調査（開始、終了）時間
・24 時間で表示
・データが取得された時間帯
・同日で複数の時間帯に分けて調査が実施され、データが取得された時間帯が明確でない場合は、調査開始時間の早い時間帯を表示

● time_zone：標準時
・±hh:mm で表示

● area：エリア
・調査エリア名をアルファベットと数字で表示

● point：ポイント
・調査ポイント名をアルファベットで表示
・潮間帯上部を「U」、潮間帯中部を「M」、潮間帯下部を「L」で表示

● core_number：コア番号
・アルファベットと数字で表示

● particle_size：粒径（μm）
・底土の粒径区分

● weight：重量（g）
・小数点以下 3 桁まで表示

● weight_percentage：重量パーセント（%）
・小数点以下 1 桁で表示
・各粒径区分に含まれる底土の重量パーセント

● remarks：調査（地点）の備考
・調査や調査地点に関する備考

● Source：レコードの出典
・データの出典元に関する情報
（例）平成 20 年度重要生態系モニタリング推進事業沿岸域（磯・干潟・アマモ場・藻場）調査業務報告書

※データがない（欠測値、該当なし等）場合は「nd」、データはあるが何らかの理由で利用できない（未確定、異常値等）場合は「na」とした。
・行頭に「#」がついている行は、データファイルの概要（メタデータ）、データ項目、注釈です。

④ 底土の強熱減量及びそれに付随するデータ（底土分析）

データ構造

・行頭に「#」がついている行は、データファイルの概要（メタデータ）、データ項目、注釈です。

データ本体の説明

● catalog_number：カタログ番号
・収集品内のレコード別 ID
・[サイトコード＋調査名＋通し番号]、調査名は FIL（Fiveyear_Ignition_ Loss of the sediments）
（例）AKSFIL0000001：厚岸サイト（AKS）の 5 年毎調査の底土の強熱減量（FIL）

● investigator_id：調査者番号
・モニ 1000 沿岸域調査者データベース（DB）の番号と対応

● year_collected、start_year_collected、end_year_collected：調査（開始、終了）年
・4 桁の整数で表示

● month_collected、start_month_collected、end_month_collected：調査（開始、終了）月
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査月（month_collected）が明確でない場合は調査開始月の値で表示

● day_collected、start_day_collected、end_day_collected：調査（開始、終了）日
・1～2 桁の整数で表示
・一回の調査期間が 1 日の場合は、全て同じ値
・調査日（day_collected）が明確でない場合は調査開始日の値で表示

● time_of_day、start_time_of_day、end_time_of_day：調査（開始、終了）時間
・24 時間で表示
・データが取得された時間帯
・同日で複数の時間帯に分けて調査が実施され、データが取得された時間帯が明確でない場合は、調査開始時間の早い時間帯を表示

● time_zone：標準時
・±hh:mm で表示

● area：エリア
・調査エリア名をアルファベットと数字で表示

● point：ポイント
・調査ポイント名をアルファベットで表示
・潮間帯上部を「U」、潮間帯中部を「M」、潮間帯下部を「L」で表示

● core_number：コア番号
・アルファベットと数字で表示

● ignition_loss：強熱減量
・小数点以下 1 桁で表示
・重量パーセントで表示

● remarks：調査（地点）の備考
・調査や調査地点に関する備考

● Source：レコードの出典
・データの出典元に関する情報
（例）平成 20 年度重要生態系モニタリング推進事業沿岸域（磯・干潟・アマモ場・藻場）調査業務報告書

※データがない（欠測値、該当なし等）場合は「nd」、データはあるが何らかの理由で利用できない（未確定、異常値等）場合は「na」とした。

V. 参考情報

モニタリングサイト 1000　ウェブサイト
https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査（磯・干潟・アマモ場・藻場）調査マニュアル
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/index.html

作成　　2023 年 7 月

編集・発行
環境省自然環境局生物多様性センター
担当：保全科
〒403-0005　山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
Tel：0555-72-6033
E-mail：biodic_webmaster@env.go.jp
URL: https://www.biodic.go.jp/

事務局
特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合
〒103-0011　東京都中央区日本橋大伝馬町 17-1
城野ビル II 2F
Tel：03-5614-2150　FAX：03-6806-4187
URL: http://japan.wetlands.org/ja/